



当院における超音波検査について

超音波検査（エコー検査）は、超音波を物質にあてて、跳ね返ってきた情報を画像に変換する検査です。非常に非侵襲的で、被ばくの心配もなく、大掛かりな装置も不要なため、検査室以外の病室等でも可能な検査です。従って、何か疾患を疑った場合、まず施行検討されることが多い検査です。小児から高齢者、そして妊婦さん（胎児）



内科部長 山添 司

まで検査可能です。対象臓器は、腹部、心臓、血管、乳腺、甲状腺など幅広く、結石や腫瘍、血管の走行異常などを捉えることができます。

検査方法を簡単に説明すると、探触子（プローブ）と呼ばれる超音波を出す機器を、対象臓器を覆っている皮膚表面に押しあてて検査します。その際、探触子と皮膚を密着させたり、また不要な空気が間に入らないようにするため専用のジェルを皮膚に塗って検査します。このジェルは人体には無害です。

ただ、デメリットとしては骨や体内ガスが多い臓器は超音波が届きにくく、描出が難しくなります。したがって、検査前に絶食（食物残

渣やガスを増やさないため）にしたり、検査時に体位変換を要したりすることがあります。

検査は施設によりますが、医師や専門技師が施行します。当院では入院患者様中心に担当技師が日々検査を行っております。検査結果はほとんどの場合、その場で判明しますので、異常がみつかったときには素早い対応が可能となります。

この記事に目を通された方で、医師等に超音波検査を勧められた時には、ほんとに侵襲性の少ない検査ですので、恐れることなく速やかに検査を受けられることをお勧めします。



難病の状態に沿った個別ケア提供を目指して

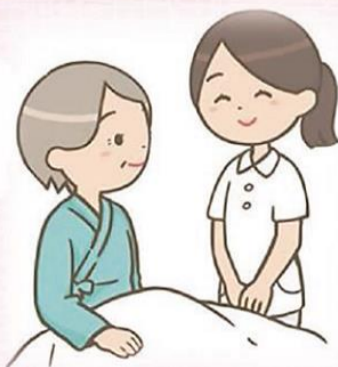
難病看護師とは、一般社団法人日本難病看護学会が認定する看護師です。

難病看護師の役割は、難病の病態に応じた支援・患者・ご家族への助言や指導、多職種との連携・助言・支持・地域での取り組みに参画・社会支援への寄与があります。

難病は厚生労働省が認める疾患で現在338疾患あります。病棟でも難病に罹患し入院生活を送っている患者様は多くおられます。千里中央病院に入職する前は、レスパイト（介護者の休息を目的とした入院）専門病棟で働いていました。日々看護していく中で難病と向き合いながら生活を送り、慣れない入院生活を送っている患者様の看護提供をさせていただいていました。しかし、看護していく中で疾患に対して参考書などで学ぶことはできませんが、日々進行する症状などに対して手探りでやっていることが多い状況でした。そして千里中央病院へ就職後も難病患者様の看護提供をしています。そんな中この難病看護師という魅力的な資格を薦めていただき取得に至りました。



西3階病棟 難病看護師 奥田 啓子



患者様は難病と診断されてから個人差はありますが、徐々に寝たきりの生活を余儀なくされていることが現状です。しかし、時間により会話できたり手が動かせるなど、日内変動のある患者様が多いですが、その中で状態に合わせた看護提供できるように日々学ばせていただいています。

今後も難病看護師としての役割が果たせるように日々患者様からたくさんのご意見を吸収していきたいと思っております。そして療養生活を苦痛なく送れるように看護提供していきたいと考えています。また、多くの方に難病に対してより深く理解していただけるように支援していきたいと思っております。

放射線科

昨年10月に10年間使用していた16列マルチスライスCT装置からキヤノンメディカルシステムズ製の80列マルチスライスCT装置「Aquilion Serve(アクイリオン サーブ)」に更新し以前のCT装置より高性能になりました。

最新のAI技術により以前のCT装置より被ばく線量を大幅に減少させることが可能となりました。また撮影時間を短縮出来ることで、患者様への負担軽減と撮影の迅速化が可能になりました。

開口径が大きくなったことにより圧迫感を感じにくくなり、拘縮の強い患者様の撮影で装置との接触で発生する皮膚トラブルなどを未然に防止できる確率が上がりました。

これにより安心してCT撮影を受けていただく事が出来ると思います。

そして画質の向上と画像処理の高速化により撮影後すぐに微細な骨折や炎症、出血などを発見し、撮影した画像を基に3D画像・高精細画像を作成し説得力のある画像を院内に配信できるようになりました。



検査科

検査科は4名のスタッフが在籍しています。検査には患者様から採取された血液や尿を使って検査する検体検査と患者様の体を直接検査する生理機能検査があります。

検査精度の維持向上のために内部精度管理の実施や医師会や技師会が主催する外部精度管理に参加し、精度の高い検査データを提供できるように日々努めています。

◎ 検体検査

尿検査では、試験紙を用いて尿中に含まれる潜血・蛋白・糖などを検査し、顕微鏡を使って尿中に含まれる細胞を詳しく見ていきます。

採血された血液は、主に自動分析装置を使用して血液分野では貧血・出血や炎症の程度を、生化学分野では肝機能や腎機能・電解質などの項目を測定しています。

これらの項目は健康状態の目安として、病気の診断や治療効果等予後の判定に重要な意味をもっています。

更に安全に輸血が行われるための重要な情報である血液型や不規則抗体の検査も実施しています。

◎ 生理機能検査

生理機能検査は主に心電図検査と下肢血管等の超音波検査を実施しています。

心電図検査は心臓の筋肉の収縮に伴い微弱な電気信号を記録したもので、心筋梗塞や心房細動や不整脈などがわかります。

ベッドにおお向けに寝て頂き、手足首に4つのクリップと、胸元から脇にかけて6つの吸盤を装着し検査をします。非侵襲的な検査であるため安心して検査を受けて頂けます。検査は5分～10分程度で終わります。

超音波(エコー)検査は体表面から超音波の反射を利用して、体内の臓器や動きを調べる非侵襲的な検査です。

骨折などの手術後でベッド上で安静にしている期間が長い場合、下肢の血流が悪くなり血管の中に血の塊である血栓ができてしまうことがあります。それ以外にも血液検査のDダイマーが高値の場合に下肢血管の超音波検査を実施します。下腹部・足の付け根～足首に超音波をあてて、走行する血管の拡張や・血栓の有無を検査しています。



◎ チーム医療への参加

感染対策委員会、医療安全対策委員会、衛生委員会では、院内ラウンドに同行して多職種と一緒にチーム医療に取り組んでいます。

編集後記

能登半島地震でお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心から願っております。

(医事課 藤末)

● 病院理念 ●

『最高のホスピタリティを目指して』

私達は常に心と技術の両面から「最高のホスピタリティ」を目指し、継続的に院内環境を改善するよう努力してまいります。

基本方針

- 1) 地域社会との連携
- 2) チーム医療の推進
- 3) 豊かな人間性を持った医療人の育成